ソースコードの解説

# WeightTracker.java

テキスト

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。

「private static final String FILE\_NAME = "weight\_data.txt";」

→ファイルを開くBufferReaderなどで使うファイル名の文字列を定義しておくことで、何度もファイル名を書く必要をなくしている。

※そうすることでファイル名の修正が変数名だけで済む

グラフィカル ユーザー インターフェイス が含まれている画像

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。

## readPreviousWeight();の呼び出し

テキスト

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。

・**BufferedReader**でファイルの値を読み込む

→br.readLine()で1行目を読み取る

以上の処理で前回の体重記録を変数previousWeightに格納している

テキスト

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。

readPreviousWeight()でデータがない場合は-1を返すため、「previousWeight != -1」を判定条件にすることで前回のデータがない場合の処理を記述できる。

## saveCurrentWeight()の呼び出しについて

テキスト

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。

テキスト

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。

・**BufferedWriter**でファイルに値を書き込む

→bw.write(String.valueOf(weight));で実際に値を書き込んでいる。

※BufferedWriterは参照型だからvalueOfでオブジェクト型に変換している。

## Try-catch文の必要性

テキスト

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。